

人権 守って
好きやねん
久宝寺

久宝寺地区

花みずき

福祉だより

発行者
久宝寺地区福祉委員会
委員長 津川 勝
八尾市北久宝寺2丁目1番1号
八尾市 久宝寺出張所内
TEL 922-2233

ボランティア 感謝する人 される人

久宝寺地区福祉委員会 委員長 津川 勝



久宝寺地区の皆様
新年 あけましておめでとう
ございます。

平素は本福祉委員会の運営に多大のご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、就任時はヨチヨチ歩きの状態で役員の皆様方には大変ご迷惑をお掛けしたことを、まずは反省しております。

この一年で心に残ったことも多くありました。それは人と人との触れ合い(絆)です。(抜粋してみました。)

◆何でも言わん会で参加者の一人ひとりとお話が出来たこと。

(地域の問題提起を本音で話せたこと)

◆るんるん教室で子ども達との触れ合い。(道で会ったとき、声をかけてくれる子どもも...)

◆幼稚園児との交流(スマイルタイムなど園児の笑顔に癒されました)

◆すぎやねん久宝寺まつりや、市民スポーツ祭に特別出演して頂いた久宝寺中学校の吹奏楽部の演奏。(会場の拍手もひと際多かったですように思いました)

◆特に印象深いのが十一月二十一日の防災訓練でした。今回は小松自治振興委員長の提案で「要援護者宅訪問・安否確認」が折り込まれ、今までにない新しい手法で参加者が「震災想定」をした真剣な取り組みには、久宝寺地区の団結力が見えたと思いました。

自治振興委員・民生児童委員・日赤奉仕団・八尾市消防団(久宝寺分団)を始め、各種団体や各町会の皆様方の協力があったものと感謝致します。(参加者推定 六五〇名)

昨年、花みずきの紙面で「ありがとう」の花を咲かそう!ですタートしましたが、今年も更に皆様方のお力添えで色よい大輪に育てたいものです。

「ありがとう」

大輪咲かす ボランティア

今年も皆様方が健康であり、福祉の行事にも参加して頂けることを祈念致します。

『子どもは宝』

久宝寺小学校 教頭 野原 秀樹



私が教師になった頃の学校は、パソコンもコピー機も携帯電話もなく、何をするにも時間と手間がかかりました。反面、その頃はゆったりとした時間の経過の中で、子どもの変化や成長を日々の教育活動の成果と感じ、それが教師の喜びであり楽しみでした。

しかし、その後の急激な時代の変化の中で、便利で経済的に豊かな世の中になりましたが、失ったものも大きく、今では子どもが悲惨な事件の被害者になったり、ある時は加害者になったりする事件が起きる世の中になってしまいました。そしていつの間にか、子育てや教育が大人にとって「難しく煩わしいもの」になってしまったように思います。

教育の原点は「次代を担う宝」を家庭で、地域で、学校で、それぞれの立場で積極的に関わり、その成長を見守り、そしてその成果を喜び楽しむことです。

親は、子育てを放棄し他人の責任にしないで、自分の「宝」として、優しく時には厳しく深い愛情を持って育て、子どもの成長を楽しむことができる親であってほしいと思います。

学校も時代の変化の中で求められるものも多様化・複雑化した中で、「児童は宝」と明るい展望を持ち、教師一人ひとりが児童一人ひとりの成長を楽しみ喜び、さらに、充実した教育活動を展開できる活力ある学校にしていかなければならないと思います。

また、社会の大人たちが、見て見ぬふりをすることなく、積極的に地域の子どもたちに関わり、それぞれが地域の子どもたちに背中を見せることのできる大人に成長することが望まれます。さらに、その自信が「子どもの成長を楽しむ」という本来の姿につながっていくのです。

このように「お互いに、子どもの成長を楽しむことができ大人になる」ことが、これからの教育や子育てに一番大切なのだと思います。

「子育ては、苦しむものではなく楽しむものなのです」

未来を拓く力

久宝寺小学校 PTA会長 太田 隆

地域の皆様には、日ごろより子どもたちのために、多くの励まし、またお力添えをいただき深く感謝申し上げます。おかげさまで子どもたちは元気いっぱい学び、遊び、一日一日大きく成長しています。

中学二年の私の娘が登校する際、いつもと違う道を通っていたところ、地域の方が笑顔で語りかけて下さったそうです。その真心が娘の心に響いたようで、「これからはその道を通学コースにする」と話してくれ、恥ずかしがりやの娘ですが、今ではご近所の方にも積極的にあいさつをするように心がけているようです。人を育てるといつても結局は人間的な触れ合いの中にあるということを感じて感じました。

PTA会長をさせていただいて、たくさんの方との出会いの中で強く感じることは、その驚くほどの人間力です。それは人としての誠実さであり、思いやりの心、正義感の強さといえます。そうしたお一人一人によって支えられているのがこの久宝寺であるということを感じさせていたことができました。

アメリカ・ルネサンスの哲人エマソンは「人生で最も必要なものは、自らの可能性を引き出してくれる存在です」という言葉を残しました。「無縁社会」といわれる現代にあつて、この久宝寺のような人間味ある繋がりがこそ強く求められていると思います。なにかなく未来の宝である子どもたちにとって欠かすことのできない教育環境といえるのではないのでしょうか。

新しい時代を開きゆく大切な存在であり、無限の可能性を秘めた子どもたちの力を引き出すために自分に何ができるのか。「学ぶ」は「真似(まね)ぶ」と同源であるといわれています。またダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨くことができないともいいます。そういう意味では私たち大人の生き方にこそ未来を開く鍵はあると感じています。PTAとしてはもとより、一人の人間として、まず自分自身がしっかり学び、一日一日成長していくことを決意しています。

皆様には今後とも子どもたちを温かく見守っていただき、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

投稿

道しるべ

久宝寺四丁目
中長春巳

古い歴史の町「久宝寺内町」

旧村・新興住宅が混在して住民の交流が深められ、和気藹々、まだまだつきない寺内町への思慕の余地があります。衣食住足りて礼節を知る、人情を知る地域を考える町久宝寺。

「久宝寺内町のシンボルマーク」



KYUHOJI

大水路の辻々にある道しるべ
北は大手町通りから南は中之町まで
三本の太い線で区切られ

上部「宝珠」 つまり「宝」

大小二つの円の組み合わせ、和

赤色は太陽のイメージ、情熱

下部「久」の字 俗字とされる書体

人が手を前に突き出している姿

前進や、祈 青色は、知世冷静

(注・シンボルマークデザイン) 川中實人

ありがとうございます・感謝・合掌

「こどもまつり」を終えて

久宝寺地区青少年育成連絡協議会 文化部長

北見千鶴

一月八日のリハーサルを経て、九日 久宝寺小学校体育館に於いて、こどもまつりを開催しました。

開会の言葉の後、久宝寺中学校吹奏楽部による演奏で幕を開けました。吹奏楽部の皆さんには毎年、迫力のある素敵な演奏を聞かせていただいています。

こどもまつりは、こども会単位の演目を中心ですが、日々お世話になっている女性会の皆様による寸劇、地区での剣道・空手道クラブの稽古風景、有志のこどもたちによるダンスなど、多方面で活躍されている参加者もおられます。

今年の子ども会からの参加は、新町地区、ひまわり地区のみ、久宝寺地区のサークルとして活動しているダブルダッチを足しても三団体という寂しいものでした。

新町地区は、学校で習った「スイミー」を音楽劇にアレンジして発表してくれました。

海の仲間扮演した子どもたちは、とても楽しそうに演技してくれました。

ひまわり地区は三パターンのダンスの発表でした。小道具を使うなど、難易度の高い内容でしたが、子ども達は明るく元気一杯の演技を見せてくれました。

ダブルダッチサークルは、私の担当する文化部の活動として、三年前に発足しました。大阪体育大学のサークルの皆さんが指導に来てくれ、練習を重ねています。今年は六年生が考えたダンスも組み込み、難しい技も披露してくれました。

こどもまつり終了後は、昨年度までと趣向を変え模擬店を開催しました。初めての試みで、不都合もあつたかとは思いますが、育成会会長さんの協力のもと、子どもたちの笑顔が見られたことが何よりうれしく、また来年以降もみんなでより楽しめるイベントにしていこうと思えました。

舞台発表に向け、約一年間の時間を費やし、案を出し合い、練習を重ねることは、かなりの労力が必要です。しかしそれ以前に、出場に踏み切れない地区からは、「こども会員が少なくて何もできない」、逆に「こども会員が多すぎてまとまらない」など声も聞かれました。

伝統あるこどもまつりが今一度活性化されるには、関係者各位の団結、柔軟且つ強固な協力関係を築き、各地区こども会単位での積極的な参加が必要であると強く感じました。

今回参加いただいた各団体の皆様、また運営に携わっていただいた皆様、本当にありがとうございます。次年度以降も何卒よろしくお願いいたします。



子育て支援ひろばの案内

主任児童委員 横山 久美子

子育て支援ひろば「はとぼっぼ久宝寺」も五年目を迎えようとしています。委員長をはじめ、民生委員・児童委員の方々と協力し、開催に向け、場所の確保・おもちゃ集め・安全点検・消毒など、わくわくしながら準備に励みました。

第一回開催日には生後一か月過ぎのあかちゃんを連れてこられたお母さんもうらっしゃいました。その子どもさんも、もうすぐ五歳です。月一回の行事であるものの、道で言えば、声を掛け合い、子どもさんの成長を親御さんと一緒に楽しませてもらっています。「安心して子育てできる地域」になればと私たち民生委員・児童委員が力を合わせて、「はとぼっぼ久宝寺」のさらなる充実を目指して人とひとのつながりを大切にしていきたいと思えます。

「はとぼっぼ久宝寺」就学前のお子さんと保護者の皆さんが自由に集い、交流できる遊びの広場です。地域の皆さんとの出会いとふれあい、語り合いに参加しませんか？誰でも自由に参加できます。親子で直接おこし下さい。

■場所 寺内町ふれあい館(八尾市まちなみセンター) 八尾市久宝寺三丁目三二〇

TEL〇七二一九二四一六七三

■日時 毎月第三土曜日 午前十時〜十二時まで

都合の良い時間にご自由に遊んでお帰り下さい。(但し、八月・一月はお休みです)

■対象 〇歳〜就学前のお子さんと保護者(同伴)です。

■内容 大型遊具、絵本、おもちゃ等使って自由な手遊び

■持物 お茶(必要ならミルク)、履物を入れるビニール袋

◎お問い合わせ 久宝寺地区民生委員・児童委員まで

女性会俳句

- 太陽と冬雲せめぎ合ふ日和 山下美典先生
- 初日記生きる喜び力みけり 乾 芳子
- とんど果て底に熱気の残りをり 川島 貴世子
- 豪雪地偲び浪速に住む幸を 佐々木 都
- 日脚のぶそこ迄来しと子の寄りぬ 杉村 為久子
- 燃える色縁取る雲の寒落暉 近松 壽子
- 富士の山裾長々と雪化粧 友金 節子
- 朝手水寒九の水の固さかな 中村 芳子
- 旧正の休暇に合はせたる帰国 福井 瑞子
- 直会のお酒にほろり初詣 庖刀 久美子
- 初鴉神社瑞兆飛び立てり 山田 啓子

編集後記

一般の方からの原稿を期待していましたが投稿を頂きました。久宝寺内町に伝わる「道しるべ」のシンボルマークです。色んな事を知っておられる方がおられることを感じました。それから青少年育成連絡協議会の「こどもまつり」に敬意を表します。指導いただいた役員の方々の努力は見事です。次号も久宝寺の古い事とか言い伝えなどを掘り起こして投稿して下さい。(富永)